

Le HAUTE ROUTE —シャモニーからツエルマットまで 187km—

深澤 裕

◎期間 2016 年 8 月 7 日（日）～ 8 月 21 日（日）（15 日間）

◎メンバー 深澤 裕、連れ合い

Le HAUTE ROUTE 行程表

日 時	行 程	宿 泊 先
8 月 5 日（金）	JAL45 HND10:35—PARIS16:10 AF1042 PARIS18:30—GVA19:40	Hotel Movenpick
6 日（土）	バスで移動 GVA 国際空港 12:30—シャモニー14:00	Hotel Alpina
7 日（日）	シャモニー・ブレバン(2525m)～アルジャンティエール村(1251m)	GiteLe Belvedere
8 日（月）	アルジャンティエール村(1251m)～フランスとスイスの国境 バルム峠(2204m)～トリアン村(1279m)	Hotel Auberge du MontBlanc
9 日（火）	トリアン村(1279m)～フェネトレッド・アプレット峠(2665m) ～シャンペ村(1466m)	LodgeHotel Bevedere
10 日（水）	シャンペ村(1466m)～ル・シャープル村(821m)	Hotel A Larze
11 日（木）	ル・シャープル村(821m)～Mt モンフォルト(3328m) ～モンフォルト小屋(2457m)	Cabane de MontFort
12 日（金）	モンフォルト小屋(2457m)～ル・シャープル(電車とバス) ～アローラ村(2006m)	Hotel de PIGNE
13 日（土）	アローラ村(2006m)→リードマッテン峠(2919m)迄ハイキング	Hotel Aiguille de La Tza
14 日（日）	アローラ村で休養・調整	同上
15 日（月）	アローラ村(2006m)～ル・サージュ村(1667m)	Hotel de La Sage
16 日（火）	ル・サージュ村(1667m)～ツアッテ峠(2868m)～ モイリー小屋(2825m)	Cabane de Moiry
17 日（水）	モイリー小屋(2825m)～ソレボイス峠(2896m)～ジナル村(1675m)	Hotel Europe
18 日（木）	ジナル村(1675m)～フォルクレッタ峠(2874m)～ グルーベン村(1822m)	Hotel Scharzhorn
19 日（金）	グルーベン村(1822m)～アウグストボルド峠(2896m) ～ザンクト・ニクラウス村(1127m)	Hotel La Reserve
20 日（土）	ザンクト・ニクラウス村(1127m)～ヨーロッパ小屋(2220m)	Europe Hut
21 日（日）	ヨーロッパ小屋(2220m)～ツエルマット(1606m)	Hotel Milabeau
22 日（月）	ゴルナーグラート散策&ツエルマット博物館	同上
23 日（火）	電車で移動 ツエルマット 12:13～ VISP13:21～GVA 国際空港 16:09	Hotel Movenpick
24 日（水）	AF1143 GVA17:00 発—PARIS18:10 着 JAL46 PARIS20:30 発—	
25 日（木）	—HND15:25 着	

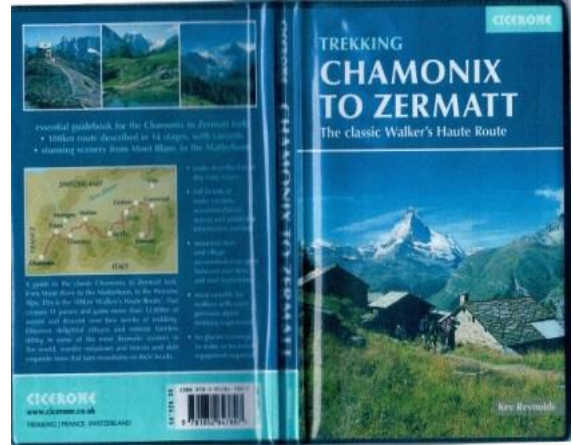
※山小屋3軒と Hotel Scharzhorn 以外のホテルは全て日本で予約

※1€=116円 1CHF=108円

1. はじめに

2014年10月に単独でアンナプルナ・サーキットを歩きました。ヒマラヤの山塊を堪能しました。その後、ヨーロッパアルプスのシャープな山容にも魅力を感じ、一度ヨーロッパアルプスを歩いてみたいと思い、夫婦でLe HAUTE ROUTE（オート・ルート）に挑戦することにしました。

イギリスのCICERONE社のTREKKING CHAMONIX TO ZERMATT The classic Walkers Haute Route というガイドブックがあったので手にいれました。このガイドブックにはオート・ルートが丁寧に解説してあります。200ページもあり、この村に着いたらこのホテルに泊まると良いとか、このホテルを逃すと2km先のホテルまで歩かなくてはいけない、など書かれています。すぐれものです。写真も多く載っています。\$25はお買い得です。私たちはこのガイドブックに沿ってトレッキングを計画しました。ガイドブックに載っているホテルは予約し、15日間で歩き通せるようにしました。地図も探したのですが日本では手に入らず、結局シャモニーの書店で購入しました。Martigny282T, Arolla283T, Monte Rosa Matterhorn5028T という3枚の地図です。この5万分の1の地図は、1枚3000円くらいの値段ですがその価値は十分あります。多色刷りで森林や氷河がしっかりと記入され、山が立体的に描かれ、小さな歩道まで正確にトレースされています。紙質も良く、雨の中でもしっかりと耐えていました。ガイドブックとこれらの地図のおかげで安心してオート・ルートを歩くことができました。



2. シャモニー・ブレバンからアローラ村まで

■8月7日（日） 1日目 晴天

初日はシャモニーからアルジャンティエールの町まで歩きます。谷の南側のブレバン（2525m）という山頂の展望台までロープウェイで行くことができるのでロープウェイを使い、ブレバンからアルジャンティエールまで歩くことにしました。2525mの展望台からはシャモニーの谷を挟んで北側のモンブラン山群と沢山の氷河が手に取るように見渡せます。モンブランやグランドジョラスなどを眺めながらのトレッキングは贅沢なものです。道はしっかりとしています。歩き始めたらすぐに50mほどの雪渓がありアイスバーンになっています。アイゼンを持ってこなかったのでストックを頼りに慎重に歩きました。こんなに雪や氷があるといやだなあと思っていましたがこの日はここだけでした。この辺り、冬はスキー場になっています。今は草原のゲレンデの中にトレイルがついています。約5時間のモンブラン大展望トレッキングを終え、アルジャンティエールのホテルに宿泊しました。



（モンブランを眺めながらシャモニー・ブレバンを出発）



（シャモニーの谷を歩く 拡大写真 P.1）

■8月8日(月) 2日目 晴天

この日はフランスとスイスの国境超えがあります。この辺りは冬はスキー場となります。夏場は牧場になっています。今は多くのハイカーで賑わっています。多くの牛が草をたべています。国境のバルム峠(2204m)には60cmくらいの石碑があるだけです。登ってきた側にはFRANCEと彫っており反対側にはSWISSと彫っています。何とも緊張感の無い、あっさりとした国境です。この峠からはシャモニーの町やモンブラン山郡が遠望できます。マウンテンバイク(MB)の客も多く、峠からはバイク用のトレイルがいくつもついています。ロープウェイにもMB用のキャリアがついています。この国はMBが盛んです。ホテルでTVをつけるとリオ・オリンピックのバイク競技ばかり流しています。



(フランス・スイス国境のバルム峠)

峠にはレストランが一軒ありました。前庭で10人くらいのハイカーが食事をしています。私たちもオムレツとサラミのサンドイッチを頂きました。ここからやっとスイスフランが使えます。ユーロを現金で持ってこなかったのが助かります。

この日は峠を下り、牧場の中を歩いてトリアン村に泊まります。この村のホテルはドミトリーで夕食・朝食付きです。バックパッカーが多く、予約していない飛び込みの客は断られていました。私たちは3時頃に着いたのでドミトリーの良い場所を確保できました。ベランダからは南隣の教会越しにトリアン氷河が遠望できます。シャワーを浴びてさっぱりしました。夕方6時頃になるとドミトリーのベッドは全部埋まりました。一階のロビーでは、皆さんワインやビールを飲みながらゆったりと時間を過ごしています。大人の世界です。

ここの夕食のメインはフォンデュでした。茹でたジャガイモに溶けたチーズをトロトロかけて頂きます。同じテーブルのシカゴから来た年配女性グループから「日本のお寺巡りはどうですか」と質問され、四国のお遍路巡りのことを紹介しました。「日本の田舎町では英語は通じないわね」と言っていました。このグループの女性たちは元気でした。残りのフォンデュを全部すくって食べて行きました。もったいない精神に溢れていました。

■8月9日(火) 3日目 曇のち雨

トリアン村のホテルから南に向かい、牧場の中を歩き始めました。だんだんとトリアン氷河が近づいてきます。沢の水量が増えてきます。谷の中を進み、氷河を西側に見ながら高度を稼ぎます。森林限界が2000mくらい。ここの登りは氷河がぐんぐんと迫ってくるので迫力があります。途中で犬を連れたハイカーを追い越します。この犬は自分の荷物を背負っています。さすが犬好きの国民です。フェネトレッド・アプレット峠(2665m)の手前で雨に捕まりました。かなり寒く、毛糸帽子・手袋を付けます。やっとの思いで峠に着きランチです。ここは奥穂高から前穂高の稜線に近い風景で。10人くらいのグループも雨の中、峠で食事をしていました。雨に濡れた岩場の道を気をつけながら下り、牧場を通り抜け、17時にシャンペ村に着きました。





(アプレット峠の登山者たち)



(アプレット峠からの展望)

この町は白樺湖のような観光地です。小さな湖があり、その周りにいくつものホテルが立ち並んでいます。この日のホテルは家族経営でした。奥さんが作る食事は最高で、焼いたチーズを乗せたサラダは絶品。メインの牛肉の煮込み。デザートは赤い野苺の実が疲れた体に染みしました。スイスの赤ワインは美味しかったです。

■8月10日(水) 4日目 晴天

シャンペ村からル・シャープル村へと幾つかの村の中を歩く道です。谷底まで下ります。道の途中で昨夜のデザートに出ていた野苺の実が沢山生っていました。いくつか、もいで、口に頬張ると甘い香りが広がります。そういえば昨日、雨の中を村の人達が草むらの中で何かの実を探っていましたがこの実だったのです。自然の恵みに感謝です。

オート・ルートは谷底から峠を越え、また谷底の村まで歩くことが基本になっていますが、谷底の村から村へと歩く今日のような日もあります。

スイスの人達は窓辺やベランダを赤を基調とした鮮やかなゼラニウム等の花で飾っています。家の壁は黒に近い茶色で統一されているログハウスです。庭も芝がきれいに刈られています。庭の隅に家庭菜園が必ずあり、美味しそうな野菜類が育てられています。質素で無駄の無い生活が伺えます。観光立国であるスイスは景観を重視しています。洗濯物はどこに干しているのかと探すと、ベランダの高さの後ろ側に干しています。旅行者が訪れないどんな田舎の村でも徹底されているのが凄いです。どの村を通っても教会が必ずあります。またトレイルにゴミが一つも落ちていない。タバコの吸い殻なんて全くありません。これには感心します。

コースの整備状況と道標の的確さが素晴らしい。無駄のない道標は信頼が置けます。おせっかいな看板が全くないのも驚かせられます。これはスイスの山だけでなく町中でも同じです。道もしっかりとついています。歩く人が多いのでしょう。これだけのクオリティーの高さを保つにはかなりの国民の努力と忍耐が必要だと思います。どんな田舎の村でも観光客を意識した町づくりをやっているのでしょうか。標高 1400mのシャンペから 800mのル・シャープル村のホテルに着いたのが午後 3 時。ここのホテルは昨年 12 月に完成したばかりの、北欧風のデザインの建物でした。サウナもあり、快適でした。

■8月11日(月) 5日目 晴天

この日は 2457mにあるモンフォルト小屋に泊まるので、余分な荷物をこのホテルに預けました。ル・シャープル村は谷底の村です。ここからロープウェーが出ています。途中のベルビエールという町

は、ホテルやシャーレ（民宿）が建ち並び、谷底の村とは比較できないくらい大きな町でした。ロープウェーを4台乗り継ぎMt モンフォルト（3328m）に行きます。スイスの人たちはロープウェーを作る天才です。私たちはそこから雪渓や氷河の展望を楽しみました。少し下のカフェでランチを頂きました。こちらの人は景色を楽しみながらワインを飲み、食事をするのが大好きですね。私たちも山岳展望ランチを楽しみました。

ここから1時間30分ほど歩き、本日の宿泊地モン・フォルト小屋（2457m）に到着です。15時到着。早かったので2人部屋を確保できました。ここのテラスからも氷河が眺められます。広がる山々にかかる霧の広がりがこの小屋の高さを凄いものにしています。この小屋にはMBの客もいます。駐車場も近いので家族連れも多いです。夕食は持参したハム・チーズや野菜類やワインを頂きました。



（モンフォルト小屋）



（モンフォルト小屋からの展望）

■8月12日(火) 6日目 晴天

BFはコンチネンタルで珈琲にパンとジャム、シリアルとシンプルなものでした。料金は二人でCHF96（約11000円）ほどでした。7時。ここから歩いてル・シャープルに戻ります。早朝の眺めは素晴らしく、朝日に輝く山々が広がる展望を満喫しました。まだ人がいない空気の澄んだ山嶺を歩く喜びを感じました。ル・シャープル村のホテルに着き、荷物を受け取ります。今日からアローラ村に向かいます。

電車とバスを乗り継いで、アローラ村に着いたのは午後4時でした。この村は奥を3000m級の山に囲まれた、谷のどん詰まりの村です。上高地のような観光地で、多くの車が駐車してありました。帝国ホテルのような高級ホテルもありました。私たちは1週間ぶりにバスタブ付きの部屋に泊まりました。

■8月13日(水) 7日目 晴天

晴れたので、リードマッテン（2919m）という峠までハイキングします。アローラ村は標高2000mなので約900mを登るトレッキングになります。この道もすばらしく、西側の放牧場の向こうに巨大な氷河が現れます。オート・ルートの凄いところは常に氷河が現れる、そして氷河を展望しながら歩けるということです。

（アローラ村からリードマッテン峠までハイキング⇒）

峠につくと、そこからもう一つのシェイロン氷河が現れます。展望に飽きがきません。一面のお花畑の中を4時間ほど歩きました。この日は、昨夜泊ま



ったホテルから 20 分程下ったキャンプ場の近くのホテルです。一軒だけポツンと建っています。しかしこのホテルのレストランはスイスの郷土料理がおいしく、多くの人で賑わっています。

■8月14日(木) 8日目 晴天

今回は荷物を軽くし、18kg くらいに抑えていましたが、それでも途中で重く感じました。だんだん疲れが溜まってきました。そこで「地球の歩き方・スイス」「文庫本」「衣類」など重いものをこのホテルで捨てました。ザックが少し軽くなりました。この日は、カフェで友達に葉書を書きました。

ここのホテルには2泊しました。ここのレストランはスイス郷土料理が有名らしく、食事が美味しいので、昨夜も賑わっていました。どんな料理なのかメニューからだけでは分からないので困っていると、隣の席のオランダ人夫婦が助けてくれました。「この料理はポテトスライスの上にハムや葱や卵を乗せてオーブンで焼いた料理」などと説明してくれました。彼はジョンというオランダ人の医者で、日本にも行ったことがある親日家でした。利尻島や礼文島にも行ったことがあると話してくれました。この近くに別荘を持っているので時々このホテルに来るそうです。奥さんは元教員でゆっくりとした老後の生活を楽しんでいるようでした。ちなみに「別荘には年間どのくらい行くのですか」と聞くと「12週間」と答えてくれました。「もうリタイアしたいのだが、まだ辞めさせてくれない」と言っていました。ヨーロッパの金持ちはゆったりしています。彼にはツエルマットの美味しいスイス料理レストランを2つ紹介してもらいました。

3. アローラからツエルマットまで

■8月15日(金) 9日目 晴天

8時に美味しいBFをいただきました。たっぷりのチーズが溢れたスイス料理とフルボトル赤ワイン・ビールなどを全部含んで2日分でCHF444(約48000円)でした。

少し軽くなった荷物とリフレッシュした体で今夜の宿泊地ル・サージュ村に向かい、歩き始めました。ル・サージュ村には一軒しかホテルが無く、予約するのに苦労しました。15日しか空き部屋が無く、この日に合わせてトレッキング計画を立てたのです。アローラ村での3連泊もその意味で丁度良かったのです。この日は2000mから1600mへと標高を下げます。幾つかの村を通る快適な道です。途中、道を間違えて牧場の中に入り込んでしまいました。古い家の裏側を通ると年輩の女性がテラスで朝食を取るところでした。裏の沢から引いた水場には歯ブラシセットが置いてあります。沢の水を生活用に使っているのです。スイスの水は美味しく、私たちもシェラカップで沢の水を汲んで飲んでいました。ボンジュールと挨拶しました。道に戻り、バスの中継地でもあるレス・オーデレス村に向かいます。レス・オーデレス村は谷底の村で1400mです。ここの村のカフェでランチをいただきル・サージュ村に向かいます。あと200mの登りになります。

樹林帯を歩いていると森の木にキリストの十字架が取り付けられている所があります。マリアの像が岩を削って飾ってあることもありました。スイスは昔、カソリック信仰が強かったと聞いています。村には必ず古い教会が建っています。しかし、スイスはプロテスタントの発祥の地でもあります。教会がなくても聖書さえあれば信仰は叶うという信念があるのでしょうか。森の木に取り付けられたキリスト像やマリアの像にプロテスタントの強い信仰心を感じ



じました。

ル・サーージュ村にはホテルは一軒しかありません。小高い丘の上にあるシックで古いホテルでした。予約してあったので即、部屋に入ります。ベランダから Mt モン・コロン (3636m) やモン・コロン氷河が眺められます。ホテルの裏の小さな店でパン・ハム・チーズ・果物・ワインを買い、ベランダで夕食を取りました。今日も風呂に入れるとは贅沢です。

■8月16日(火) 10日目 晴天

2868mのツアッテ峠を越えます。ここからヴァイスホルン(4506m)の頭がチラチラと見えます。この山はスイス第3位の高さで、姿形も立派です。早く全貌が見たいとわくわくしました。

6時間30分歩いて Cabane de Moiry (モイリー小屋) に着きました。最後の40分は岩場の急登が続きます。雪渓もありモイリー氷河が東側から迫ってきます。この小屋は2825mの岩場の肩の部分建っています。奥穂高山荘のようなイメージです。古い小屋は石造です。2000年に作られた新しい小屋とつながっています。新しい小屋はモダンで、内装だけ見ると都会のビルの中にあるような気分になります。

この小屋の驚くところは、広いガラス窓から迫力のあるモイリー氷河が見えることです。凄いです。夕食は氷河を見下ろしながらスープ・メイン・デザートと美味しい料理を頂きました。メインは「牛肉の野菜煮込み」でした。牛肉は厚くボリュームもありました。デザートのチョコレートケーキも絶品でした。



モイリー小屋 (石造り)



(モイリー小屋へ向かう道)



(モイリー氷河)

シャモニーの近くから来たというフランス人のカップルは「明日、氷河をクライミングする」と言っていました。スイスでは氷河を登るのもありなのですね。部屋は4人部屋でした。他の宿泊者が来なかったもので2人で使わせてもらいました。ドミトリーだとCHF16安くなるそうです。小屋は6月から9月中旬まで開けているそうです。それ以外の季節はスタッフが下りてしまうので避難小屋のみ開け、自炊のみです。雪が降ると厳しそうでした。夕食付きで2人でCHF167(約18000円)。スイスの山小屋の実力はたいしたものですね。

■8月17日(水) 11日目 曇のち晴天

7時にBF。シリアルもインスタント珈琲も美味し。8時。岩場に気をつけながら下ります。激しく迫るモイリー氷河を後にしながら、モイリー湖の東側を歩き、ソレボイス峠(2896m)に向かいます。この峠は360°の展望でした。堂々としたヴァイスホルン(4506m)が真向かいに見えます。最初、私はこの山をマッターホルン(4478m)と勘違いしていました。隣にいた若いドイツ人の登山者が「マッターホルンはこの山の向こう側だ」と教えてくれました。そしてこの周りに見える山々の名前を丁寧に教えてくれました。ありがたかったです。

約6時間30分歩いてジナル村着。立派なホテルでした。名前がHotel Europe。バスタブつきで隣には大きなスーパーマーケットもあります。風呂・洗濯・買出しをし、部屋でゆっくりと夕食をいただきます。外食をすると2人でCHF100(約11000円)はかかるので節約するようにしました。スーパーで買出しをすると、ワインを1本買ってもCHF30で済みます。

■8月18日(木) 12日目 曇のち雨

この日はフォルクレッタ峠(2874m)を超えます。8時にBF。このホテルは名前も立派ですがBFの果物も豊富で嬉しかったです。9時に出発したときは晴天でしたが峠の手前で雨に捕まりました。風も強くなり近くの小屋に避難しようかと考えましたが、何とか行けそうだと判断し頑張って、13時に峠に着きました。峠には雪渓が残っていました。

風を避けて写真を撮り、即グルーベン村に向かいます。途中でUKの単独行者と一緒にになりました。彼はスバルに乗っているそうで「日本の車はいいよ」と言って、着ているスバルのTシャツを見せてくれました。今回は日本びいきの外国人に多く出会います。不思議です。

16時。雨の中。グルーベン村に到着。ここにはホテルが一軒しかなく、予約をしていなかったのです。このHotel Scharrzhornに泊まれなかったら4km先の村のホテルに泊まるしかありません。部屋が空いているか聞いたら個室を取ることができました。ラッキーです。トイレ・シャワーは共同でしたが清潔なホテルでした。あの日本車びいきのUKの彼も泊まっていました。他のオート・ルートを一緒にあるいていたトレッカーも泊まっていました。皆さんCIGERONE社のガイドブックを使っていました。ここの夕食も絶品でした。日本ではなかなかお目にかかれないスイスワインは腰があり、ババロアに蜂蜜をたっぷりと使ったデザートと合いました。感動の一皿でした。

■8月19日(金) 13日目 晴天

牧場の中を歩き、アウグストボルド峠(2896m)を越えると、ザンクト・ニクラウスの村がかなり下の方に見えます。ここからツエルマットの谷に入ります。ここの途中にTawara ViewPointという展望地がありました。ViewPointというだけあって、ここからは南の谷の彼方にクラインマッターホルン(3883m)やブライトホルン(4159m)やスイス最高峰のモンテローザ(4554m)が遠望できます。谷の東側にはスイス第二位の高峰ドーム(4545m)が聳えています。谷の西側にはスイス第三位の高峰ヴァイスホルン(4506m)とスイスのベスト3が一望できるのです。贅沢な展望です。あと第四位のマッターホルン(4478m)が見えたら鬼に鉄棒です。ここでは1時間ほど展望を楽しみました。

NYから来たカップルを案内していたガイドが、ここから見える山を私たちにも説明してくれました。このガイドは年輩の女性でした。キリッと引き締まった体をして格好良かったです。「明日はヨーロッパ小屋に泊まり、Europawegを歩き、ツエルマットの町まで行こうと考えている」と話すと彼女は「ヨーロッパ小屋から先のツエルマットの町までの道は土砂崩れで道がなくなっているから、危険だ。」と

教えてくれました。

午後4時。ザンクト・ニクラウスの村に着きました。ここには鉄道が通っています。この谷からはドイツ語圏となります。挨拶もボンジュールからグーテンタークに変わりました。



↑Tawara ViewPoint から南の谷の彼方を望む
右=クラインマッターホルン 左=ブライトホルン

スイス第2位の高峰
「ドームをバックに」↓



■8月20日(土) 14日目 雨

ザンクト・ニクラウス駅前8時40分発のバスでガゼンリード村まで行きます。約500mを登ります。これで2時間のアルバイトが助かります。今日は長丁場のトレッキングです。Europawegというトレッキングコースと重なる道です。道が険しいため、牧場がありません。そのかわり山羊が放牧されていました。霧が出ているので展望が全くありません。たまに霧が晴れると谷の向こう側にスイス第三位の高峰ワイスホルン(4506m)が少しだけ顔を出します。

雨に降られながら、落石に気をつけ、ザイルの張ってある岩場の道や吊り橋渡り、約8時間歩いて17時にEurope Hut(2220m)(ヨーロッパ小屋)に到着しました。樹林帯の中に佇む素敵な小さな小屋です。私たちは6人部屋に泊まりました。ドミトリーは12人が泊まれます。6人部屋は4つありました。シャワーは有料です。どこの小屋もそうですが、トイレの使用済みの紙は屑箱に入れるように指示されています。この日は霧が出ていて殆ど展望がありませんでした。晴れると、谷の向かい側にワイスホルン(4506m)とマッターホルン(4478m)が展望できるという凄い小屋です。

ビールを飲みながら寛いでいると、小屋の従業員が窓の外を指差します。驚きました。テラスの近くまで野生の鹿が何頭もやって来たではありませんか。彼らは人を恐れず、悠々と草を食べていました。ここの従業員の女の子は「いただきます」「おいしです」などと、たどたどしい日本語で話しかけてくれました。親日的であたたかいおもてなしでした。モイリー小屋もそうでしたが、ここの小屋にも犬がいました。スイスの犬はしつけの良い犬ばかりで決して人に向かって吼えません。人と犬の成熟した関係があるように感じました。夕食はパン・スープ・メイン・デザートと美味しい料理を満喫しました。疲れた体に染みしました。



宿泊料金は2食込み、2人で158スイスフラン(約17000円)でした。

■8月21日(日) 15日目 曇のち晴天

最終日。ここから谷の東側の Europaweg を歩き、ツエルマットの町まで行こうと考えていましたが「途中の道が土砂で流されていて危険だ」という話を聞いていたので、谷底に下り、ランダ村からタッシェ村を歩いて、南東方向に聳えるマッターホルンを眺めながらツエルマットの町に向かいました。

1991年にランダ村の西側の崖が崩落し、落石と土砂で道路や鉄道線路も埋まってしまうという大災害が起きました。その写真が小屋にも掛けてありました。これだけ深い谷だと凄いことになるのだなあと感じました。歩いてランダ村に近づくと今でも巨大なその崩落跡を見ることができます。この谷の生命線である鉄道が使えなくなるとツエルマットの観光産業は全滅になります。この日、登山鉄道沿いの道も歩きましたが落石対策がしっかりとなされていました。トンネルが掘られたり、頑丈な柵が続いていたり、その安全対策は驚きでした。

ランダ村やタッシェ村にはゴルフ場がありました。ここではトレッキングコースの隣でゴルフをやっています。またBBQを楽しむ家族の姿も見られます。秋はトレイルランが開かれ、冬にはクロスカントリ大会も開かれるそうです。この谷は、観光立国スイスの名に恥じない自然を生かしたアミューズメントに溢れています。

ツエルマットの町に近づくにつれだんだんと人が多くなっていきます。駅前には大きなキャンプ場もありました。ヘリポートもあります。俗化してくるとでもいうのでしょうか。ツエルマットの駅前には観光客で溢れ、原宿駅前のような感じです。土産物屋やレストランやアウトドアの店が並んでいます。日本人観光客や中国人観光客も大勢います。客待ちの馬車が並んでいます。電気自動車しか走っていないので思ったより静かですが、山の中とは大違いです。ふと、あの自然に溢れた景色が懐かしくなりました。

駅前で記念写真を撮り、ホテルでオート・ルートの完踏を祝い、ビールで乾杯しました。大人のトレッキングコースであるオート・ルートを歩けたことに感謝しました。今回2泊するこの四つ星の高級ホテルはインターネットで予約したのですが、料金が52%引きでした。4階のベランダからはマッターホルンが展望できます。月の光に照らされるマッターホルンが、疲れた体を癒してくれました。



(ホテルのベランダから眺めるマッターホルン)

4. 終わりに

スイスの村はどこの家も窓やベランダに花を飾り、絵に描いたような景色が続きます。ホテルでは従業員の方々は優しく微笑んでくれます。

しかし、森や牧場で働く人々は厳しい表情の方々が多かったです。トレッカーが挨拶してもギロツと睨み返すような堅い表情です。スイス人は谷の上まで牧草地にして牛や馬を飼います。牧草地にする仕事は大変な作業だと思います。夏は牛や馬を谷の上の牧草地に連れて行き、夏小屋で過ごします。冬は谷を下りて、自宅の一階の牛舎に牛を入れて餌をやり育てます。雪の降る冬の間、牛たちに餌をやりながら自宅で過ごすことは大変な仕事だと思います。

「一般のスイス人労働者はトレッカーに甘い顔を見せない。」という矜持があるのかもしれませんが。

中世よりスイスは国土の狭さに加え、人口過剰で苦しんでいたと言われています。スイスの男性は、傭兵としてフランスやイタリアなどに出稼に行っていたそうです。堅実で働き者のスイス人傭兵はひっぱりだこだったそうです。そのためスイス人同士が外国で戦うことも珍しくなかったそうです。1789 年、フランス革命ではルイ 16 世を守るためにスイス人傭兵が最後まで戦ったそうです。

そういえばローマのバチカン市国で警備をしている兵隊たちもスイス人傭兵でした。ミケランジェロのデザインした制服に身を包んでいました。何でバチカンにスイス人傭兵がいるのだろうと訝しく思いました。スイス人は今でも傭兵としてヨーロッパ各国に行っているのでしょうか。

ネパールのトレッキング会社の社長もグルカ兵としてロンドンで兵役についていました。彼はイラク戦争にも行ったと語っていました。経済的に貧しい国の男たちは傭兵として、今でも紛争中の国に行っているのでしょうか。

1674 年にスイスは初めて外交政策として「武装中立」を宣言し、1815 年のウィーン会議以降、国際的にも「永世中立」が認められました。スイスはその後、労働力を精密機械産業や繊維産業に費すことができ、産業を振興させたそうです。スイスは世界で最も物価の高い国の一つです。しかしスイスの観光客に対するホスピタリティーは高い物があります。大人の国です。

スイスは未だ EU にも加盟していません。中国やアラブなど世界中の金持ちが資産を預けるスイス銀行は有名です。独自の経済政策を構えているのでしょう。この雄大な厳しい自然を生かした観光立国には、多くの学ぶべきことがあるように思いました。今回、スイスの田舎の村を歩いて多くのことを学びました。また多くの外国人トレッカーと出会いました。彼らの多くは日本の文化や自然や産業に興味を持っていました。「新婚旅行で日本に行った」なんて言っていた UK のカップルにも出会いました。面白いことです。素晴らしい自然だけでなく、UK・フランス・ドイツ・オランダ・アメリカなど多くの国の方たちと楽しい出合があったオート・ルート。お世話になったスイスの方々に感謝です。

このまま永世中立国として平和なスイスが続くことを願って止みません。

ツェルマット最終日に登った
ゴルナーグラートから大きく
うねるゴルナー氷河を望む。
右のピークはリスカム(4527m)

